

器 編 集 後 記 器

この報告書の刊行で、昨年から続いている交流の仕事が半分終わったことになる。まずは、ホッとしている。これからは受け入れ準備に忙しい。ポートランドでお世話になった方々へ恩返しをする番である。心からもてなしたいものである。

今回の引率は、ある時は「添乗員」、ある時は一行の「代表」、ある時は「カウンセラー」、そしてある時は「通訳」(私の能力が及ばない場面もしばしばであったが)として気の休まる暇がなかったというのが、率直な感想である。千歳で生徒たちを、父母に無事引き渡した(?)ときには、思わず安堵の溜め息がもれた。向こうで関係者に、「おまえは何事にも心配しすぎている。もっとリラックスしなさい。」という意味のことを言われた。私の性格もあるが、生徒の命を預かっている以上、そう言われても苦笑いしかできなかった。

しかし、生徒たちは実にのびのびとアメリカでの3週間を過ごしてくれた。互いに言葉の壁を乗り越え、アメリカ人と日本人としてばかりでなく、同じ高校生として理解し合おうと努力していた姿を見て、「国際交流」の基本はここにあることを教えられた。とかく、ギクシャクしている日米関係だが、個々の人間同士のつきあいには、アメリカも日本も存在しない。あるのは、心のつながりだけである。今回の短期留学で生徒はひとまわり大きくなったような気がする。私自身も、これからの教員生活に大いにプラスになる研修を積むことができた事を実感している。

今回の交流は多くの方のご支援によって成功させることができた。リンカン高校の伊東先生やホストファミリーの皆様には大変お世話になった。北陵高校においても、多くの方から励ましを頂いた。特に、姉妹校委員会の先生方には、交流計画の段階から良きアドバイスを頂き感謝している。とりわけ、前回の引率者である 先生には物心両面の援助を頂いた。また今回から、引率者の費用を「PTA」予算から支出していただく措置をとって頂き、関係方面に感謝している。次回も同様の経済的バックアップがあれば、ますます交流しやすくなると思う。お力添えを頂いた皆様に感謝し、この行事が今後ますます発展することを願っている。最後に、この報告書の刊行が遅れたことをお詫びしたい。

引率教員

ホクリョウ・キッズの見たアメリカ

—— ポートランド市リンカン高校ホームステイ交流の記録 '92 ——

1993年3月31日発行

編集者 札幌北陵高校姉妹校委員会

Sister School Committee of Sapporo Hokuryo

Senior High School

発行者 北海道札幌北陵高等学校

〒001 札幌市北区屯田7条8丁目5-1

印刷 文栄堂印刷所